

30年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 9月1日～ 30年9月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は17社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/9月	10月	11月
入荷動向	スギ	0.0	4.5	13.6
	ヒノキ	△ 7.1	△ 7.1	△ 14.3
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	0.0	10.0	15.0
	ヒノキ	△ 5.0	0.0	15.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 16.7	5.6	11.1
	ヒノキ	△ 6.3	0.0	0.0
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0

・スギ製材用原木の入荷動向は9月の横ばいから10月、11月は増加に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツ、トドマツとも9月の増加から10月、11月は横ばいに。

・スギの消費動向は9月の横ばいから10月、11月は増加に。ヒノキは9月の減少から10月は横ばい、11月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは9月の横ばいから10月は増加、11月は再び横ばいに。

・スギの在庫動向は9月の減少から10月、11月は増加に。ヒノキは9月の減少から10月、11月は横ばいに。カラマツ、トドマツとも9月の増加から10月、11月は横ばいに。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	30/9月	10月	11月
スギ	36.4	18.2	10.0
ヒノキ	50.0	33.3	25.0
カラマツ	50.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・製材用原木の価格動向はスギ、ヒノキとも強保合。

・カラマツ、トドマツは横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・合板工場が定期修理に入ったため、車両の手配状況が良くなり、山土場在庫だったカラマツの入荷が進む(北海道)。
- ・トドマツ入荷は順調。今後は9月の台風と地震の影響が心配。消費は地震による停電の影響で伸びず。(北海道)。
- ・相変わらずスギ3m柱用材の入荷は横ばいである。消費もスギ、ヒノキとも前月並になっている(東北)。
- ・スギは伐採時期が来たため仕入やや増加(関東)。
- ・今後、出材が増えると思われるので仕入を進め在庫を増やしていく予定。スギ、ヒノキの製材量はほぼ横ばい(中部)。
- ・9月から消費増で年末まで通す予定。在庫は増減させない(中国)。
- ・7月以降、原木少なく入荷は減少(中国)。
- ・市場への出材は減っているが、主な取引先である素材生産業者からの入荷が順調。入荷状況に合わせた消費。丸太在庫は若干ながら積み増しできている(中国)。
- ・天候にもよるが、ほぼ安定して入荷できる見込み。秋需に向けて増産体制を整えている(中国)。
- ・記念市等のイベントもあり、天候が良ければ出材は多いのではないかと(九州)。
- ・9～10月は天候良好、記念市6カ所、市況もいいのでヒノキ原木も順調に出荷、入荷かも順調。消費も順調で残業1時間(九州)。
- ・雨等が多くスギ原木が山から出ていない(九州)。

(原木価格)

- ・トドマツは国有林の品等格付け厳格化により従前より品質が低下し、価格が割高となった（北海道）。
- ・トドマツは高値安定（北海道）。
- ・3mのスギ柱用材は引き合いが強く前月並みに高止まり。4mのヒノキ土台角用は、若干値下がり傾向（東北）。
- ・ヒノキは価格上昇となる（関東）。
- ・スギ、ヒノキとも無いもの高でやや上昇、出材が増えてくれば価格は落ち着きそうだ（中部）。
- ・9月はヒノキ原木価格上昇、10月以降は天候に次第（中国）。
- ・7月以降、原木少なく取り合い状態で価格上昇（中国）。
- ・7月の豪雨災害による林道・作業道に不通箇所が相当あるようで、原木の出材が減っている。また、秋雨の影響も加わり原木価格は上昇している（中国）。
- ・原木市場が強気で交渉してきている（中国）
- ・9月は天候、特に台風の進路によって地域的に価格差が出る可能性あり（九州）。
- ・ヒノキ丸太やや上昇だが買い気有り。新たな合板工場の進出に原因有り（九州）。

30年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/9月	10月	11月
生産動向	スギ	4.2	0.0	9.1
	ヒノキ	△ 11.1	△ 5.6	△ 5.6
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	0.0
出荷動向	スギ	9.1	9.1	25.0
	ヒノキ	△ 5.6	0.0	12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	25.0
在庫動向	スギ	△ 15.0	△ 10.0	△ 5.0
	ヒノキ	6.3	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産動向は9月の増加から10月は横ばい、11月は再び増加に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは9月の横ばいから10月は増加、11月は再び横ばいに。

・スギ製材品の出荷動向は3カ月連続増加。ヒノキは9月の減少から10月は横ばい、11月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは9月の横ばいから10月、11月は増加に。

・スギ製材品の在庫動向は3カ月連続減少。ヒノキは9月の増加から10月、11月は横ばいに。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは9月の減少から10月、11月は横ばいに。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/9月	10月	11月
スギ	柱角 KD10.5×3	9.1	4.5	0.0
	柱角 KD12×3	9.1	4.5	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	0.0	5.6	5.6
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	15.0	15.0	5.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	7.1	7.1	8.3
	柱角 KD12×3	7.1	7.1	8.3
	土台角 10.5×4	12.5	12.5	7.1
	土台角 12×4	14.3	14.3	7.1
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	50.0	

・スギ製材品の出荷動向価格動向は柱角KD10.5×3、KD12×3、母屋角、間柱ともやや強含み。その他の品目は横ばい。

・ヒノキ製材品は柱角KD10.5×3、KD12×3やや強含み。土台角10.5×4、12×4は強含み。通し柱横ばい。ラミナは弱保合。

・カラマツは梱包仕組み板、ラミナとも横ばい。

・トドマツサンギは保合。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・秋は需要期に入るためフル生産へ。生産即出荷で受注残に追われている。地震による停電の影響で9月一杯受注残の整理に追われる（北海道）
- ・生産動向は稼働日数、原材料の集荷に課題が残る。出荷動向は秋口順調な盛り上がりを見せている。8月末より出荷調整を強く意識。秋口に入り、3mの柱・間柱をメインに全サイズで在庫不足が目立つ（東北）。
- ・スギ材は生産順調。出荷は相場も横ばいで推移（関東）。
- ・年末に向けて活発化する得意先が多いので、生産・出荷動向ともやや増加。ヒノキ完成品の在庫は持たない。スギは在庫を持ってないだろう（中部）。
- ・10月から増産、増販の見込み。在庫は9月増やし10月から横ばい（中国）。
- ・原木の入荷状況に合わせて生産。製材しただけは販売していくが迫力はない。特に東京などの大都市圏（中国）。
- ・秋需に向け生産体制を見直している。出荷は生産動向次第。在庫は製品により偏りが見られる（中国）。
- ・暑さも弱まり、秋需が来れば多少増産・残業もするだろうが、製品市場等の流通の動きは今のところ静かである（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツ製品の需要と供給のバランスにより値上げか維持か（北海道）。
- ・スギの3m関係は、原木の値上がりと製品の引合いの強さから値上げを実施。その他の製品に関しても出荷調整を継続。ヒノキは前月同様、引き合いが強く出荷調整。スギ集成管柱は出荷が順調に増えているが、生産にはまだ余力がある。更なる拡販を目指す（東北）。
- ・スギは値上げしたいが、できるか分からない（中部）。
- ・ヒノキ柱、土台は横ばいからやや値上へ。ヒノキラミナは下落トレンド（中国）。
- ・スギ、ヒノキとも、原木丸太の上昇に関係なく相場は上げ渋っている。横ばい（中国）。
- ・スギ、ヒノキとも横ばい。原木価格が製品価格に反映されていない（中国）。
- ・ヒノキ製品価格は上昇せず横ばい（九州）。

30年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/9月	10月	11月
仕入動向	米マツ丸太	100.0	△ 100.0	100.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	100.0	50.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	△ 100.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入動向は9月の増加から10月は減少、11月は再び増加に。NZラジアータは9月の横ばいから10月、11月は増加に。

・米マツ丸太の消費動向は3カ月連続増加。NZラジアータは9月の横ばいから10月、11月は増加に。

・米マツ丸太の在庫動向は9月の増加から10月は減少、11月は再び増加に。NZラジアータは9月の横ばいから10月、11月は増加に。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/9月	10月	11月
米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太、NZラジアータ丸太とも原木購入価格動向は横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・7月の豪雨災害による減産の反動により9月は増加。9月より平常稼働。
- ・10月から12月まで繁忙期となるためNZラジアータ丸太の入荷、消費、在庫ともやや増加。

(原木価格動向)

- ・NZラジアータ丸太の購入価格は横ばいで変更なし。

30年9月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	30/9月	10月	11月
生産動向			
米マツ製材品	100.0	50.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	△ 100.0	0.0	100.0
NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	100.0	50.0	△ 50.0
NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は3カ月連続増加。NZラジアータマツ製材品は9月の横ばいから10月、11月は増加に。

・米マツ製材品の出荷動向は9月の減少から10月は横ばい、11月は増加に。NZラジアータ製材品は9月の横ばいから10月、11月は増加に。

・米マツ製材品の在庫動向は9月、10月の増加から11月は減少に。NZラジアータ製材品は9月の横ばいから10月、11月は増加に。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/9月	10月	11月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツは平角、正角、小割とも横ばい。

・NZ梱包材(割板、割角)、土木用材とも横ばい。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・10月から12月まで繁忙期となるためNZラジアータ製材品の生産、出荷、在庫ともやや増加。

(製材品出荷価格動向)

- ・NZラジアータ製材品の出荷価格は変更なし。